

平成26年度スーパーグローバルハイスクール構想の概要

指定期間	ふりがな	おかやまけんりつおかやまじょうとうこうとうがっこう				②所在都道府県	岡山県
26～30	①学校名	岡山県立岡山城東高等学校					
③対象学 科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	設置学科：全日制普通科 在籍者数：1,002名 (平成25年5月1日現在)	
普通科	360	360	30		750		
*平成26年度入学生から、年次進行で1、2年生の全員が課題研究を行う。3年生については、「GLOBALⅢ」を選択した者のみが課題研究を行うことになり、「GLOBALⅢ」については、360人の3年生のうち、30人が希望すると想定した。							
⑥研究開発構想名	「ステージは『世界』だ！」－異力を統合する城東システムの開発－						
⑦研究開発の概要	学校設定教科「GLOBAL」の開発による学類専門力を統合する「課題研究」の実施、専門性を深める「学類コア科目」のグローバルな観点からの充実、視野を広げ実践力を高める「海外体験」の充実・開発を三つの柱として取り組むとともに、それらが教育課程や教育活動において合理的にリンクする方策を研究・開発する。						
⑧研究開発の内容等	⑧-1 全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>目的：国際社会や経済界、地域等のリーダーとして、我が国及び人類の未来に貢献する資質・能力の土台づくりを行い、グローバルな視野と主体的・協力的な実践力を備えた人材を育成する。</p> <p>目標：「グローバルな視野」として、地球的課題の理解、異文化への理解、日本や岡山への理解等を深める。「主体的・協力的実践力」として、積極性やチャレンジ精神とともに、チーム力、特に異なる専門分野で協力する力をつける。実践スキル向上のため、海外体験や語学力への意識を高める。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>⑧ 現状の分析</p> <p>海外生活経験者や英語力が優れた生徒が比較的多いが、異文化に触れあう機会の少ない中学校出身者も多い。人文社会、音楽等で優れた生徒、人間的魅力にあふれた生徒など、多彩な才能を持つ生徒が多い。全体的に学力が高く、積極的で素直な生徒が多い。学校としても、海外高校生との交流や英語力強化の取組を進めている。</p> <p>研究開発の仮説</p> <p>「グローバルな社会や経済に関する課題研究」「学類での専門性を深める学習」及び「海外での体験活動」を、それぞれ充実させながら、それらを合理的にリンクさせた教育課程等を開発・充実することで、グローバルな視野と主体的・協力的実践力を備えた人材を育成できる。</p> <p>(3) 成果の普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ○研究成果を取りまとめた「生徒研究集録」等を作成し、配布する。 ○「課題研究発表会」を開催し、「GLOBALⅡ」の研究成果等を公開する。 ○全国の学校等に「GLOBALⅠ」「GLOBALⅡ」「GLOBALⅢ」の授業を公開する。 ○ホームページにSGH専用サイトを開設し、取組の進捗状況、成果等を発信する。 					
		⑧-2 課題研究	<p>(1) 課題研究内容</p> <p>「GLOBALⅠ」（課題研究の手法等を学ぶ）</p> <p>[A群]：地域の現状を知るため、次のような研究テーマを設定する 生活と環境、共生社会と福祉、男女の平等と相互の協力 等</p> <p>[B群]：世界の現状を知るため、次のような研究テーマを設定する。 南北問題、資源と経済、戦争と平和、地域産業の変化、地球温暖化 等</p> <p>「GLOBALⅡ」（本格的な課題研究を実施する）</p> <p>次のような研究テーマを設定し、岡山発信の問題解決策を提案し実践する。</p> <p>[経済・産業] 岡山県産ジーンズの世界戦略の課題と提案 国際的な観光都市岡山の課題と提案</p> <p>[国際貢献] ODAを巡る国内外の変化を踏まえた国際協力の課題と提案 発展途上地域の医療支援の課題と提案</p> <p>[環境・安全] 児島湖の歴史的な役割と環境問題の課題と提案</p>				

		<p>日本企業の海外進出と環境対策の課題と提案 [教育・文化] 閑谷学校の世界遺産登録に向けた課題と提案 日本と諸外国の高校生交流の在り方への提案</p> <p>「GLOBAL III」（課題研究を極める） GLOBAL II での研究テーマを継承したテーマを設定させ、研究内容を深め、学会等での発表や関係団体の活動への参画等を図る。</p> <p>(2) 実施方法・検証評価</p> <p>「GLOBAL I」（3単位、1年生全員履修） 各チームともA群及びB群の中から取り組む研究テーマを一つずつ選択する。 A群の研究テーマについては、岡山県の状況を調査・研究し、ポスターセッションにより研究成果の共有を図る。B群の研究テーマについては、「日本史A」「世界史A」「地理A」の学習内容と関連づけた研究を行い、プレゼンテーションにより、研究成果の共有を図る。 岡山大学の教員や企業等の担当者には、研究テーマについての講演を、大学院生には、生徒と意見交換とともに、探究活動の支援を依頼する。</p> <p>「GLOBAL II」（2単位、2年生全員履修） クラスや学類の枠を越えて8人程度のチームを組み、示した8つのテーマから一つ選択し、「GLOBAL I」で習得した技能等を活用して、本格的な課題研究を行う。 岡山大学の教員や企業等の担当者には、研究テーマについての講演を、大学院生には、生徒と意見交換とともに、探究活動の支援を依頼する。</p> <p>「GLOBAL III」（2単位、3年生の選択科目） GLOBAL II での研究テーマを継承したテーマについて、高度な課題研究を行い、成果をエッセイとしてまとめるとともに、学会で発表等を行う。</p> <p>「海外修学研修」 「GLOBAL II」での探求活動の成果を検証する場として、また、「GLOBAL III」に繋がる研修として、アメリカとヨーロッパにそれぞれ代表生徒を10名ずつ派遣する。さらに、帰国後、「海外修学研修報告会」を開催し、全校生徒でその成果を共有する。</p> <p>課題研究の成果については、アンケート、発表会等により、生徒の変容、教師の変容等を把握するとともに、事業全体の客観的な検証方法や分析方法を確立する。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 学校設定科目「GLOBAL I」に教育課程の特例を適用する。「家庭基礎」「社会と情報」2単位のうちのそれぞれ1単位と、1・2年生で継続履修する「日本史A」「世界史A」「地理A」の2単位のうちの1年生で履修する1単位を合わせた3単位を充てる。</p>
<p>⑧ 一 上 記 以 外</p>		<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価</p> <p>○「学類コア科目」の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現行の「学類コア科目」を学類研修との連携の観点から充実する。 ・「学類コア科目」では、探究活動、フィールドワーク、体験活動等の充実を図る。 <p>○「学類研修」の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学類ごとに「グローバル」をキーワードに国内外で研修を行う。 ・成果発表会を行い、成果の共有を図り、アンケート等により、成果を検証する。 <p>○「海外文化体験研修」の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・希望者が英語圏の国で異文化体験及び語学研修を行う。 ・アンケート等で、英語に対する意識の変化や、英語力の向上を検証する。 <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 該当無し</p> <p>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の取組内容・実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ○言語の使用場面を意識した英語授業実施による4技能の総合的な育成。 ○海外体験を有する中学生、外国からの編入学生、留学生の積極的な受入れ。
<p>⑨ そ の 他 特 記 事 項</p>		<p>生徒の知的好奇心を育て、活用、体験などにより、学びを統合する活動を「Activities」として位置付けている。「Activities」の一部を列記する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○希望者を対象にしたTOEICの学校での実施 ○近隣の小学生への学習支援等の社会貢献活動の実施 ○県内中学生を対象としたスピーチコンテストの開催

ふりがな	おかやまけんりつおかやまじょうとうこうとうがっこう	指定期間	26～30
学校名	岡山県立岡山城東高等学校		

平成26年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数									
a	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	450人
	SGH対象生徒以外:	300人	340人	人	人	人	人	人	90人
目標設定の考え方: 本校が計画している社会貢献活動への平成25年度の実績をもとに設定。									
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数									
b	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	320人
	SGH対象生徒以外:	77人	156人	人	人	人	人	人	4人
目標設定の考え方: 平成25年度の海外語学研修と学類研修での海外コース参加者と海外留学生の実績に、SGH事業で計画している海外研修の人数を加えて設定。									
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合									
c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	70%
	SGH対象生徒以外:	60%	60%	%	%	%	%	%	30%
目標設定の考え方: 平成24年度実施の国際交流等状況調査を元に現状を鑑み設定。									
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数									
d	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	20人
	SGH対象生徒以外:	4人	1人	人	人	人	人	人	5人
目標設定の考え方: 高校生太平洋・島サミット、アジアユース人材育成プログラム、エコミクス甲子園等の実績をもとに設定。									
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合									
e	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	70%
	SGH対象生徒以外:	50%	50%	%	%	%	%	%	60%
目標設定の考え方: 平成25年度実績(英検2級以上:55名・GTEC680以上:36名・TOEIC500以上:21名)をもとに、検定等は受けていないが同等の英語力を有すると判断できる生徒の割合を定期考査等から設定。									
(その他本構想における取組の達成目標)高大連携プログラム等により、自主的に大学の講義を受講する生徒数									
f	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	40人
	SGH対象生徒以外:	23人	14人	人	人	人	人	人	10人
目標設定の考え方: 平成25年度における岡山大学やくらしき作陽大学等での大学講義受講者数をもとに設定。									

1' 指定4年目以降に検証する成果目標									
		24年度	25年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	目標値(33年度)
文部科学省が支援する国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合									
a	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	60%
	SGH対象生徒以外:	50%	50%	%	%	%	%	%	55%
目標設定の考え方: 平成24年度卒業生の進学実績及び平成25年度3年次生の進路状況とSGH事業の成果を勘案して設定。									
海外大学へ進学する生徒の人数									
b	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	5人
	SGH対象生徒以外:	3人	2人	人	人	人	人	人	1人
目標設定の考え方: 平成24年度卒業生の進学実績及び平成25年度3年次生の進路状況とSGH事業の成果を勘案して設定。									
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合									
c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	60%
	SGH対象生徒以外:	-	-	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 平成24年度卒業生の進学実績及び平成25年度3年次生の進路状況とSGH事業で計画している研究テーマを勘案して設定。									
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数									
d	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	120人
	SGH対象生徒以外:	-	-	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 在校生の希望状況及び卒業生の動向から設定。									

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
課題研究に関する国外の研修参加者数								
a	0人	0人	人	人	人	人	人	230人
目標設定の考え方：平成26年度実施予定の海外修学研修及び学類研修(海外コース)への参加希望者数をもとに設定。								
課題研究に関する国内の研修参加者数								
b	0人	0人	人	人	人	人	人	250人
目標設定の考え方：平成26年度実施予定の学類研修(国内コース)及び教科「GLOBAL」での大学等との連携を勘案して設定。								
課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数								
c	0校	0校	校	校	校	校	校	10校
目標設定の考え方：現在連携を行っている海外の高校の数にSGH事業で計画している連携先の数を加えて設定。								
課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
d	0人	6人	人	人	人	人	人	200人
目標設定の考え方：現在内諾を得ている大学教員及び学生等の外部人材数にSGH事業で計画している連携先の数を加えて設定。								
課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
e	0人	0人	人	人	人	人	人	20人
目標設定の考え方：SGH事業で計画している企業又は国際機関等の外部人材数をもとに設定。								
グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数								
f	5人	10人	人	人	人	人	人	35人
目標設定の考え方：高校生太平洋・島サミット、アジアユース人材育成プログラム、エコノミクス甲子園等の実績をもとに設定。								
帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)								
g	7人	12人	人	人	人	人	人	20人
目標設定の考え方：現在の状況にSGH事業の波及効果を勘案して設定。								
先進校としての研究発表回数								
h	3回	2回	回	回	回	回	回	5回
目標設定の考え方：SGH事業での計画をもとに設定。								
外国語によるホームページの整備状況								
i	△	△						○
○整備されている △一部整備されている ×整備されていない								
目標設定の考え方：SGH事業での計画をもとに設定。								
(その他本構想における取組の具体的指標)英語の外部検定試験(英検、TOEIC、TOEFL、GTEC等)を受験した生徒数								
j	370人	502人	人	人	人	人	人	700人
目標設定の考え方：平成25年度における英語の外部検定試験の受験者数をもとに設定した。								

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
全校生徒数(人)	960	1,002					
SGH対象生徒数							
SGH対象外生徒数							